

プロセスフィードバックが動機づけに与える影響 —制御焦点によって調整されるか?—

○湯 立 (筑波大学大学院)
長峯聖人 (筑波大学大学院)
黒住 嶺 (筑波大学大学院)

外山美樹 (筑波大学)
三和秀平 (筑波大学大学院・日本学術振興会)
相川 充 (筑波大学)

キーワード：制御焦点，フィードバック

問題と目的

制御焦点理論 (Higgins, 1997) では、目標追求の志向性において、希望や進歩の欲求を重視し、目標を理想として捉える促進焦点と、安全や責任の欲求を重視し、目標を義務として捉える防止焦点を区別することが提唱されている。また、目標追求プロセスの中で、他者からのフィードバック (以下 FB と略す) が個人の次の活動への動機づけに影響を与えるとされている。Van-Dijk & Kluger (2004) は、促進焦点状況で成功 FB を与え、防止焦点状況で失敗 FB を与えると動機づけを高められることを示している。しかし、FB のタイプには、パフォーマンスの高低にかかわる成功・失敗 FB のほか、課題遂行過程 (例えば、方略の使用) に関するプロセス FB もある。本研究では、ポジティブ (Posi)・ネガティブ (Nega) なプロセス FB が動機づけに与える影響が、制御焦点によって調整されるのかについて検討する。

方 法

実験参加者 大学生・大学院生64名 (男性29名, 女性35名)。

実験計画 制御焦点 (促進, 防止), FB (Posi, Nega) の2要因を独立変数とする実験参加者間計画。

制御焦点の操作 自由記述の質問紙によるプライミングを実施した (6分間)。促進焦点条件 ($n=33$) では「自分の理想」について、防止焦点条件 ($n=31$) では「自分の義務」について、実験参加者に回答してもらった。

実験課題 実験課題は点つなぎ課題 (数字の順番に点をつないでいき、テーマの図形を完成させる) を4題使用した。1題ごとの制限時間は30秒であり、4題終了後、「速さと正確さのどちらの方略を重視したか」について尋ねた。

フィードバックの操作 実験参加者の重視した方略に沿って FB を与えた。PosiFB 条件 ($n=30$) では、「正確さ (速さ) を重視したのがよかったようです」、NegaFB 条件 ($n=34$) では、「正確さ (速さ) の重視が欠けていたようです」とそれぞれフィードバックした。

動機づけの測定 1. 興味: Linnenbrink-Garcia et al. (2010) を参考に、「この課題が好きだ」などの8項目を作成し、7件法で回答を求めた。2. 次の課題への努力: Van-Dijk & Kluger (2004) に従い、「前回の課題の努力に比べ、次はどの程度努力したいと思いますか」について、「-5. 前回より

努力したくない」～「5. 前回より努力したい」の11件法で回答を求めた。

結果と考察

まず、制御焦点 (促進, 防止) と FB (Posi, Nega) を独立変数, FB 後の興味を従属変数, FB 前の興味を共変数とする2要因共分散分析を行った。その結果、交互作用 ($F(1, 59)=7.25, p=.01, \eta_p^2=.11$) が有意となった。単純主効果検定の結果, PosiFB 条件では、促進焦点条件のほうが防止焦点条件よりも FB 後の興味得点が高く ($F(1, 59)=4.71, p=.03, \eta_p^2=.07$)、NegaFB 条件では、防止焦点条件のほうが促進焦点条件よりも興味得点が高かった ($F(1, 59)=2.77, p=.10, \eta_p^2=.05$)。また、促進焦点条件では、PosiFB 条件のほうが NegaFB 条件よりも興味得点が高かった ($F(1, 59)=6.91, p=.01, \eta_p^2=.11$)。防止焦点条件では、有意差が見られなかったものの、小さな効果量が得られた (NegaFB 条件>PosiFB 条件, $\eta_p^2=.03$)。

また、次の課題への努力を従属変数とする2要因共分散分析を行った。その結果 (Figure 1), 交互作用 ($F(1, 60)=5.20, p=.03, \eta_p^2=.08$) が有意となった。単純主効果検定の結果, PosiFB 条件では、促進焦点条件のほうが防止焦点条件よりも次の課題への努力得点が高かった ($F(1, 60)=3.45, p=.07, \eta_p^2=.05$)。NegaFB 条件では、有意差が見られなかったものの、小さな効果量が得られた (防止焦点条件>促進焦点条件, $\eta_p^2=.03$)。また、防止焦点条件では、NegaFB 条件のほうが PosiFB 条件よりも次の課題への努力得点が高かった ($F(1, 60)=4.21, p=.05, \eta_p^2=.07$)。促進焦点条件では、有意差が見られなかったものの、小さな効果量が見られた (PosiFB 条件>NegaFB 条件, $\eta_p^2=.02$)。

以上の結果より、プロセス FB に関して、促進焦点は PosiFB の場合、防止焦点は NegaFB の場合、動機づけが高まることが示された。

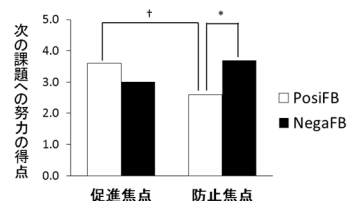


Figure 1 制御焦点とFBによる次の課題への努力得点
* $p<.10$, * $p<.05$.